

南極地域観測隊への参加

附属高等学校 ◆ 有田正志



観測計画名 「昭和基地周辺地域の 地質学的精査」

十一月十四日 晴海埠頭出港 翌年
三月二十八日帰国予定。

観測計画名は「昭和基地周辺地域の地質学的精査」で、リュツオ・ホルム湾沿岸地域、プリンスオラフ海岸地域およびエンダービーランド地域に露出する火成岩類・変成岩類の岩石学・鉱床学・年代学的研究のために、適地を選挙・精査し、試料を採集することを目的としています。

今回の地学部門は、私を含めて三人で調査に当たります。今後、他の担当者との協議、さらには現地での状況によって変更もあると思いますが、「しらせ」が昭和基地に予定どおり接岸できるものとして（今年は「しらせ」になつて初めて接岸できませんでした）、調

査内容を考えております。調査日数は、今年の十二月下旬から来年の二月上旬の間に、約四十五日を予定しています。「しらせ」のヘリコプター支援を受けて、各調査地域（一地域に三〜十日を予定）に移動し、ベースキャンプを設営して調査を行います。

地球の歴史

ご存知のとおり、地球は四十六億年の歴史を持っています。その時代は、冥王代（四十六億〜四十億年）、太古代（四十億〜二十五億年）、原生代（二十五億〜六億年）、顕生代（古生代、中生代、新生代：六億年〜）と区分されます。古生代以降の岩石や化石の情報は比較的豊富にありますが、古生代以前の化石は非常に少なく、岩石も多くはありません。古い時代のものほど情報が不足しています。現在、私たちが手に入れている最古の岩石は、カナダ中央部の四十億年のものです（西オース

トラリアの片麻岩中のジルコンという鉱物が四二・七億年を示すという報告もあります）。ちなみに、日本では、古生代よりも古い岩石は発見されていません。

我々の調査地域には、太古代や原生代の岩石が分布しています。この地域に分布する岩石を調査研究することにより、地球初期の情報量の不足を補うことができればと願っています。

パンゲア大陸と分裂移動

古生代の後半頃までは、今ある大陸がたった一つのパンゲアと呼ばれる大陸であり、その後分裂移動したものと考えられています。その時代、南極大陸（今回の調査地域）に隣接していたと考えられるスリランカ、アフリカ南部、インド半島にも、太古代や原生代の岩石が分布しており、それらの地域の研究者と協力していくことによって、よりグローバルな地球の活動が明らか

になると期待されます。このようなことにも、少しでも貢献できるよう頑張りたいと思います。

しかし、余裕があれば、是非、生徒たちに南極大陸の大自然のロマンを伝えられるようなもの（私自身の体験も含めて、映像、標本など）を持って帰りたいと思います。観測隊員に選ばれることに関して、学校や生徒たち、先生方いろいろと迷惑をかけていますので、少なくとも、生徒たちに還元できる何か欲しいものです。

最後に

三月中旬に行われた冬期訓練から、他の部門の人たちとの出会いもあり、これからも多くの人たちとの出会いがあると思います。この出会いと南極での体験を生かして、人間として成長することができるよう心がけたいと思います。

最後に、この場を借りて、いろいろとお世話になった方々や、応援して下さった方々に感謝したいと思います。六月二十日からの夏期訓練を頑張ってください。

（編集部注
この原稿は、夏期訓練出発前に急ぎようお願いして寄稿していただきました。）

（ありた・まさし）